

# 排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

A 重油ボイラから

国産間伐材を利用した木質バイオマスボイラへの  
更新プロジェクト

排出削減事業者名：株式会社アマタケ

排出削減事業共同実施者名：株式会社F Tカーボン

その他関連事業者名：

## 1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	株式会社 アマタケ
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	大東第七農場
住所	岩手県一関市猿沢大畑南沢 76
排出削減事業共同実施者（J-クレジット保有予定者）	
排出削減事業 共同実施者名	株式会社 F T カーボン
その他関連事業者	
関連事業者名	

## 2 排出削減活動の概要

### 2.1 排出削減事業の名称

A 重油ボイラから国産間伐材を利用した木質バイオマスボイラへの更新プロジェクト

### 2.2 排出削減事業の目的

A 重油ボイラ 1 台を木質バイオマスボイラ 1 台へ更新する。バイオマスへのエネルギー転換によって、CO2 排出量を削減する。

### 2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

木質バイオマスはカーボンニュートラルが適用され、CO2 を実質的に排出しないものとみなされるため、ボイラの燃料を A 重油から木質バイオマスへ転換することにより、CO2 排出量を削減する。

### 2.4 J-クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

### 2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

①ペレットの単位発熱量のモニタリング方法・根拠資料

（変更前）ペレットの分析報告書

（変更後）ペレットの分析報告書あるいは J-クレジット制度のデフォルト値

②ペレットの単位発熱量のモニタリング対象指標の QA/QC

- (変更前) 生産部部長は、単位発熱量が全乾時の高位発熱量であることを確認する。生産部部長は、ペレット品質に大きな変更がないか、確認する。
- (変更後) ペレットの分析報告書の単位発熱量が絶乾ベースの場合は、分析報告書の含水率を用いて湿潤ベースに換算し、低位発熱量基準の場合は、JIS Z7302-2 に定める計算方法で、高位発熱量基準に換算する。また、ペレットの分析報告書を年 1 回入手できない場合には、J-クレジット制度のデフォルト値を用い、以降のモニタリングは J-クレジット制度のデフォルト値を継続利用する

### 3 排出削減活動期間

#### 3.1 プロジェクト開始日

2008 年 10 月 17 日

#### 3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013 年 4 月 1 日 ～ 2016 年 10 月 16 日

### 4 温室効果ガス排出削減量

#### 4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

#### 4.2 活動量

##### 4.2.1 活動量・原単位

活動量・原単位は採用しない。

##### 4.2.2 活動量の採用根拠

活動量は採用しない。

#### 4.3 事業の範囲 (バウンダリー)

バイオマスボイラー及びボイラーから温水の供給を受ける設備

## 5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法 に変更ある場合、) 変更理由
$F_{\text{fuel,PJ}}$	木質バイオマス使用量	t	【2013年9月まで】 72.8 【2013年10月～2014年11月】 187.2 【2014年12月～】 325.65	燃料供給会社の請求書	変更なし
$HV_{\text{fuel,PJ}}$	木質バイオマスの単位発熱量	GJ/t	【2013年9月まで】 19.100 【2013年10月～2014年11月】 17.655 【2014年12月～】 17.6 (湿潤ベース、高位発熱量)	ペレットの分析報告書、あるいは、J-クレジット制度のデフォルト値	J-クレジット制度のデフォルト値を追加。単位発熱量を湿潤ベースに統一。
$\varepsilon_{\text{PJ}}$	事業実施後ボイラ効率	%	【2013年9月まで】 78.267 【2013年10月～2014年11月】 77.895 【2014年12月～】 77.689 (高位発熱量)	カタログ値	変更なし
$\varepsilon_{\text{BL}}$	事業実施前ボイラ効率	%	82.650 (高位発熱量)	カタログ値	変更なし
$CF_{\text{fuel,BL}}$	A 重油の単位発熱量あたりのCO <sub>2</sub> 排出係数	tCO <sub>2</sub> /GJ	0.0708	J-クレジット制度のデフォルト値	変更なし

## 6 排出削減量の計算

### 6.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
			0.0
EM <sub>PJ</sub>			0.0 (t-CO <sub>2</sub> )

### 6.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
72.8 (t)	19.100 (GJ/t)	0.0708 (tCO <sub>2</sub> /GJ)	
78.267 (%)			
82.650 (%)			
187.2 (t)	17.655 (GJ/t)	0.0708 (tCO <sub>2</sub> /GJ)	
77.895 (%)			
82.650 (%)			
325.65 (t)	17.600 (GJ/t)	0.0708 (tCO <sub>2</sub> /GJ)	
77.689 (%)			
82.650 (%)			
EM <sub>BL</sub>			695.2 (t-CO <sub>2</sub> )

### 6.3 リークージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
			0
LE			0

### 6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM <sub>BL</sub>	695.2
事業実施後排出量 (7.1)	EM <sub>PJ</sub>	0.0
リークージ排出量 (7.3)	LE	0
温室効果ガス排出削減量	ER	695

## 7 省エネルギー量

本事業は、再生可能エネルギーを利用するプロジェクトのため、省エネルギー量はない。

## 8 再生可能エネルギー利用量

エネルギー使用量 (実績)	熱量換算 (GJ) (実績)	原油換算(kl) (実績)
585.65 t	10,427 GJ	269.0 kL